

八郎潟町 橋梁長寿命化修繕計画

令和4年 10月

八郎潟町 建設課

目 次

1. 長寿命化修繕計画の目的	1
1. 1 背 景	1
1. 2 目 的	2
2. 長寿命化修繕計画対象橋梁	3
2. 1 管理橋梁数	3
2. 2 橋梁種別と橋長	3
3. 健全度の把握に関する基本的な方針	3
4. 橋梁維持修繕費用縮減に関する基本的な方針	4
4. 1 維持管理の基本方針	4
4. 2 維持管理手法の基本的な考え方	4
4. 3 管理区分の設定	5
4. 4 施設の集約化・撤去	6
5. 橋梁長寿命化修繕計画による効果（試算）	6
6. 新技術の活用	7
6. 1 橋梁定期点検	7
6. 2 橋梁補修	7

1. 長寿命化修繕計画の目的

1.1 背景

八郎潟町は東北地方の北西、秋田県のほぼ中央に位置します。一日市町（ひといちまち）、面潟村（おもかたむら）が合併してできた町で、昭和31年9月に八郎潟町となりました。

面積は17㎢と秋田県で一番小さな町であり、町のほとんどが開けた平地であるため、もっとも積雪が少ない地域となっています。また、自然災害が少ない点も特徴のひとつといえます。また、八郎潟調整湖の東部、県都秋田市からは北に30キロ程に位置しており、中心市街地は八郎潟駅前の商店街ですが、秋田市に近いこともあり、大規模な店舗は存在しないため、昔からの商店が立ち並んでいる住宅街といったところです。

JR奥羽本線と国道7号が南北に走り、東部には秋田自動車道 五城目八郎潟ICがあり、交通の便がとてもよいのも特徴です。

八郎潟町の主たる産業は、地理的・歴史的背景から1次産業の“農業”に偏在していました。近年の我が国の社会情勢の変化に伴い農業の衰退が進むなか、とりわけ「米」に依存していた本町の農業は重大な曲がり角に来ているといえます。更に「少子高齢化」・「人口流出」・「産業の衰退」が町勢の減退に拍車を掛けており、「産業の多角化」・「人口流出の歯止め」が最大の課題となっています。こうした課題への取り組みとして、町民の生活基盤を安定させるとともに、社会生活の利便性を向上させるためには町内道路網計画の整備が重要と考えています。

このような状況において、橋梁をはじめとする道路構造物の老朽化とそれに伴う維持管理費用の増大が新たな問題となっています。現在、町が管理している橋梁は21橋あり、そのうち橋梁の寿命といわれてきた50年を経過している橋梁はありません。しかし、年々増加し、20年後には17橋（81%）の橋梁が寿命を迎え、このまま老朽化が進むと大規模修繕や更新の費用が一時期に集中することや道路ネットワークの機能低下が懸念されます。



表1-1-1 管理橋梁の経年変化

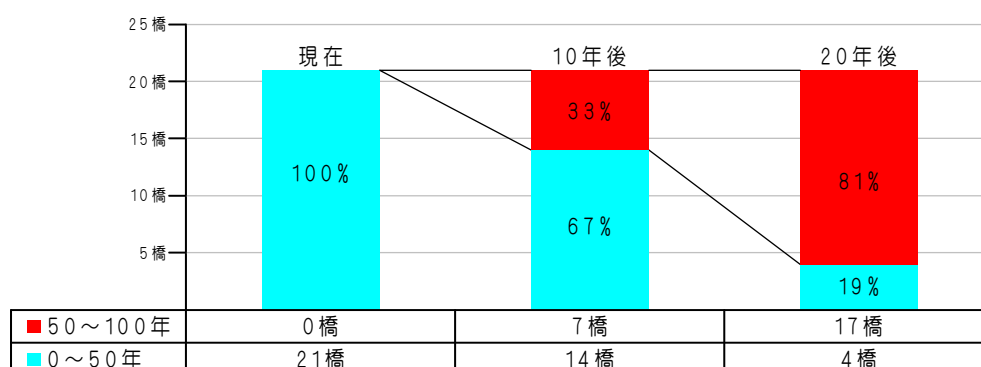
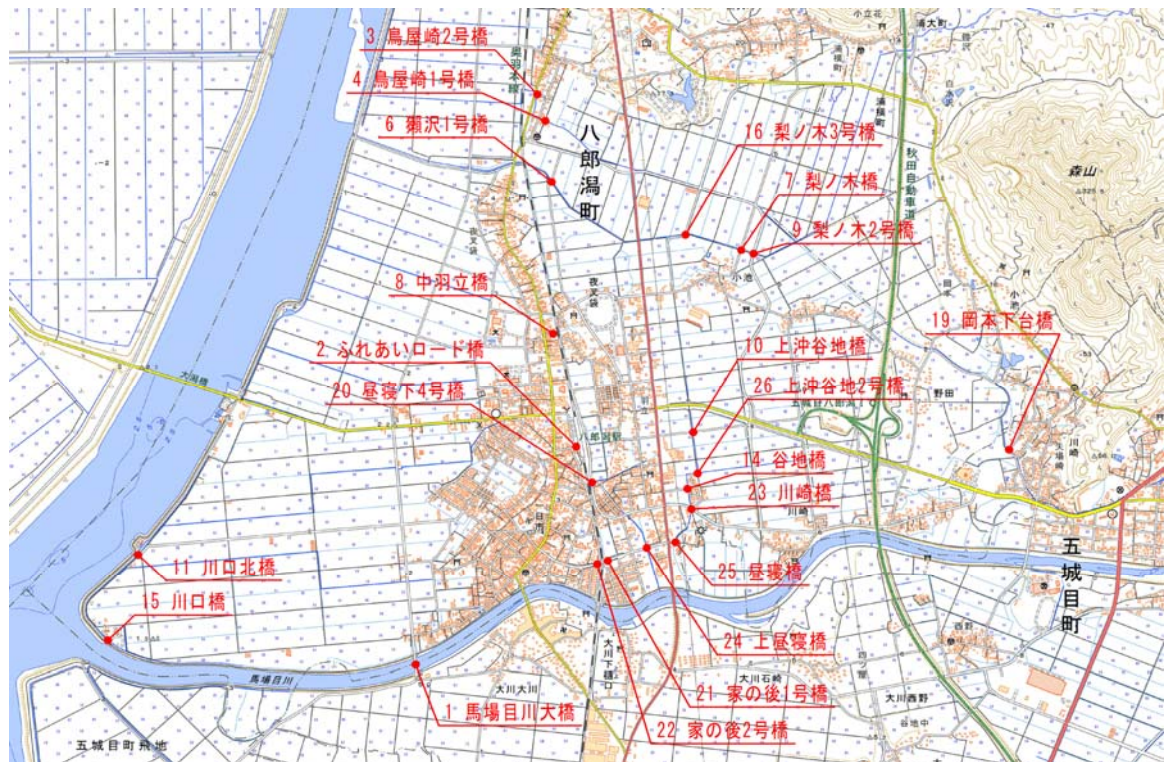


図1-1-1 管理橋梁位置図（21橋）



～管理橋梁の地域特性～

八郎潟町は、干拓地に隣接した土地でほぼ平坦であり、陸地と八郎潟の水位の高低差が少ないため、水面から桁下空間高さも小さくなる傾向があります。また、水路幅が狭く橋長も短いため、プレキャストコンクリート¹⁾（ボックスカルバートやコンクリートスラブ桁）を多く採用していることが特徴としてあります。

水面から桁下空間高さが低い橋梁は、桁下空間が多湿な環境下となる場合が多く、コンクリートの中性化（pHの低下）の進行は中程度の湿度で最大となると考えられており、コンクリート中性化における劣化因子（炭酸ガス）の制御を積極的に行っていく必要性は低いと考えられますが、内部鉄筋の腐食が助長され、最終的に構造性能を低下させるまでの期間が短いと考えられます。但し、八郎潟町付近においては、湖水はほぼ真水であり、凍結防止剤の散布も行っていないので、塩害に関して配慮する必要性は低いと考えられます。

1) 出典：大辞林（三省堂）より、現場ですぐに組み立て・取り付けができるよう、工場などであらかじめ製造される鉄筋コンクリート部材

1.2 目的

長寿命化計画の目的としては、“町民の生活基盤の安定”や“生活の利便性の確保”のために「事後保全型」の管理手法から「予防保全型」の管理手法への転換を図り、効果的な橋梁の修繕計画を策定し、長期的維持管理コストの縮減を目指します。

2. 長寿命化修繕計画対象橋梁

2.1 管理橋梁数

計画対象の橋梁は、八郎潟町で管理する橋長2.0m以上の橋梁21橋について計画策定を行います。

	町道1級	町道2級	その他町道	合 計
管理橋梁数	7	2	12	21
うち計画対象橋梁数	7	2	12	21
うちこれまでの計画策定橋梁数	7	2	12	21
うち令和4年度計画策定橋梁数	7	2	12	21

2.2 橋梁種別と橋長

計画対象橋梁N=21橋の特性を見てみると、15.0m未満の橋梁は17橋(81%)、そのうちプレキャスト製品(ボックスカルバート、コンクリートスラブ桁)は12橋/17橋(81%)と大半を占めており、交差対象はすべて水路であることが特徴としてあります。

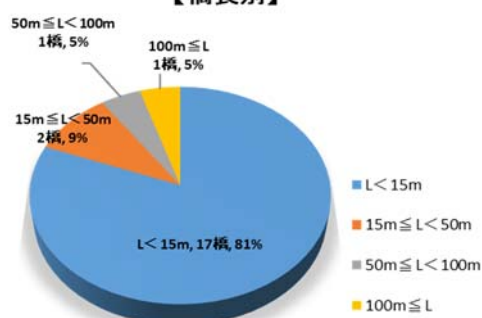
表2-2-1 橋長と橋梁種別

橋梁種別と橋長

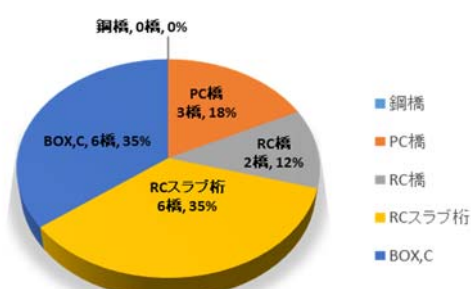
単位:橋

種 別	橋 梁 数	橋 長 別 内 訳				
		15m未満	15～50m未満	50～100m未満	100m以上	計
鋼橋	2	0	0	1	1	2
Co橋	PC橋	3	0	0	0	3
	RC橋	2	0	0	0	2
	RCスラブ橋	6	0	0	0	6
ボックスカルバート	8	6	2	0	0	8
計	21	17	2	1	1	21

【橋長別】



【橋長15m未満, 橋梁種別】



3. 健全度の把握に関する基本的な方針

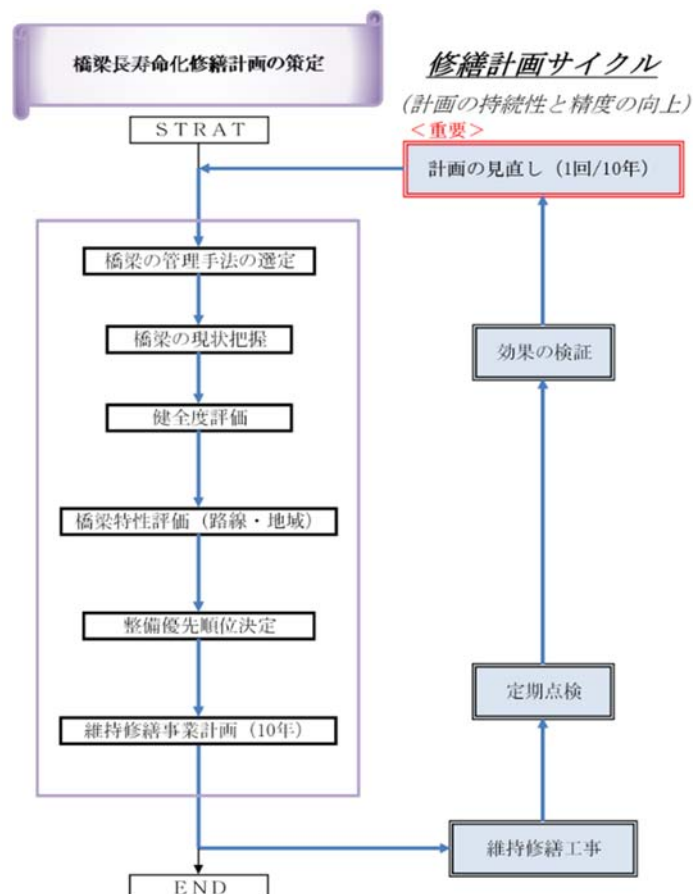
定期点検に（「道路橋に関する基礎データ収集要領（案）」平成19年度5月 国土交通省 国土技術政策総合研究所）によって得られた結果に基づき、橋梁の老朽化に伴う劣化や中性化による損傷を早期に発見するとともに健全度を定期的に把握していきます。また、定期点検は管理橋梁全て（橋長2.0m以上）において、原則として概ね5年ごとに実施します。

4. 橋梁維持修繕費用縮減に関する基本的な方針

4.1 維持管理の基本方針

道路ネットワークの利便性・安全性を確保するために、橋梁の健全度と橋梁特性（路線・地域）評価により整備優先順位を決定し、計画的・持続的な維持管理を行っていきます。また、計画は適宜見直しを図り、精度の向上を図ります。

表4-1 八郎潟町長寿命化修繕計画実施フロー



損傷や劣化要因を推定し、各対策工法の耐久年数と経済性を検討して予防的な修繕対策を行います。

「中性化深さ」「鉄筋の腐食」について詳細調査を行い、状況に応じた対策を行います。

4.2 維持管理手法の基本的な考え方

橋梁修繕の管理手法としては「事後保全型」・「予防保全型」があります。大きい橋の修繕費用は、「予防保全型」で管理することで、損傷や劣化が重大になる前に適切な対策が行われるため、修繕費用の削減効果が大きいといわれています。また、小さい橋の修繕費用は、「事後保全型」で管理しても、修繕費用の削減効果はあまり変わらないといわれています。

「事後保全型」管理橋梁については、“定期的に点検を実施して、計画的な架替え”を行い、「予防保全型」管理橋梁については、“定期的に点検を実施して、積極的かつ予防的な修繕対策の実施”により、修繕に要する長期的なコストの縮減と平準化を目指します。

4.3 管理区分の設定

橋長15m以上の橋梁やPC橋については、修繕費用の削減と長期延命化が期待出来るため「予防保全型」、それ以外の小規模橋梁は「事後保全型」で管理を行います。

また事後保全型の小規模橋梁の内、交差する水路状況により橋長の縮小が可能な橋梁については、地域住民への交通障害期間の最小限化と更新費用の削減を図り、ボックスカルバート化を考えています。

維持管理方式の区分

区分条件		理 由
予 防 保 全 型	橋長15m以上の橋	・ 予防保全型の管理手法で管理する事で、修繕費用の削減を図る。
	PC橋	・ 防水層の整備や計画的な舗装打替え、補修等の予防保全措置を行い、長寿命化、コスト削減を図る。
事 後 保 全 型	桁下空間の狭い橋 (ボックスカルバート)	・ 作業スペースが狭く、水路は年間を通して水が流れていることから、桁下での補修工事が困難。 ・ 小断面であるため予防保全型での効果がそれほど期待出来ない。 ・ 舗装等の橋上からの維持補修を適宜行いながら使用し、供用年数、損傷状況を確認しながら、将来的に架け替えを検討する橋。
	RCスラブ橋	・ 桁形状が複雑で、桁同士の隙間が狭く補修が困難。 ・ 作業スペースが狭く、水路は年間を通して水が流れていることから、桁下での補修工事が困難。 ・ 小断面であるため予防保全型での効果がそれほど期待出来ない。 ・ 舗装等の橋上からの維持補修を適宜行いながら使用し、供用年数、損傷状況を確認しながら、将来的に架け替えを検討する橋。
事 後 保 全 型 (計 画的 更 新)	BOX、C以外の橋梁で、橋長2.0m未満に縮小可能な橋梁(RC床版橋、RCスラブ橋)	・ 供用年数、損傷状況を確認しながら、適宜ボックスカルバートへの更新を図る橋。 ・ ボックスカルバートに更新することで、定期点検費、修繕費及び維持管理費の削減が図られる。

表4-3-1 計画対象橋梁及び管理手法一覧表

整理番号	管理番号	橋梁名	形式	橋長(m)	全幅員(m)	路下条件	桁下高(m)	管理手法		
								予防保全型	事後保全型	事後保全型 (計画的更新)
1	1	馬場目川大橋	鋼溶接・アーチ橋	106.6	9.6	河川	5m以上	○		
2	2	ふれあいロード橋	鋼溶接・H形鋼合成	78.1	3.7	線路		○		
3	3	鳥屋崎2号橋	RC・RC床版橋	2.2	6.0	水路	1.0			○
4	4	鳥屋崎1号橋	RC・RC床版橋	2.2	11.2	水路	0.9			○
5	6	瀬沢1号橋	RC・RCスラブ桁橋	5.8	4.1	水路	1.8		○	
6	7	梨ノ木橋	RC・RCスラブ桁橋	4.7	4.9	水路	1.8		○	
7	8	中羽立橋	RC・RCスラブ桁橋	3.0	4.5	水路	1.0			○
8	9	梨ノ木2号橋	PC・プレテン中空床版	9.4	9.2	水路	2.3	○		
9	10	上沖谷地橋	PC・プレテン床版	5.4	5.7	水路	2.7	○		
10	11	川口北橋	PC・プレテン床版	6.4	8.2	水路	1.9	○		
11	14	谷地橋	RC・RCスラブ桁橋	4.6	4.1	水路	2.1			○
12	15	川口橋	RC・RCスラブ桁橋	6.0	5.3	水路	1.5		○	
13	16	梨ノ木3号橋	BOXカルバート	4.8	19.1	水路	1.9		○	
14	19	岡本下台橋	BOXカルバート	2.3	10.1	水路	1.2		○	
15	20	屋根下4号橋	BOXカルバート	2.5	11.4	水路	0.8		○	
16	21	家ノ後1号橋	BOXカルバート	14.6	13.1	道路	4.7	○		
17	22	家ノ後2号橋	BOXカルバート	15.3	15.9	道路	4.7	○		
18	23	川崎橋	BOXカルバート	2.7	19.2	水路	2.0		○	
19	24	上屋根橋	BOXカルバート	2.4	16.4	水路	1.3		○	
20	25	屋寝橋	BOXカルバート	2.2	6.1	水路	1.9		○	
21	26	上沖谷地2号橋	RC・RCスラブ桁橋	5.5	5.2	水路	2.0			○

注) 整理番号及び管理番号は、管理識別番号であり、優先順位ではありません。

4.4 施設の集約化・撤去

八郎潟町では、定期点検結果と利用度から判断し、令和2年度に2橋の橋梁を撤去済みであり、その他の橋梁においては健全な状態を維持している。

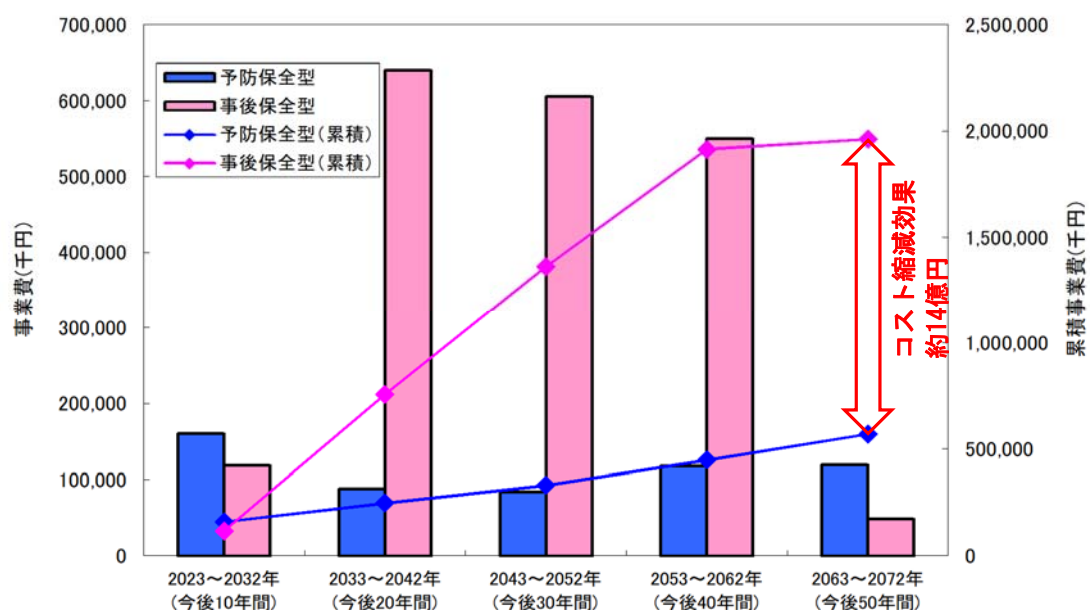
今後は、地域住民の生活形態、交差する水路の整備状況及び定期点検結果を踏まえ、集約化・撤去を検討していきます。また、橋長が2.0m未満へ縮小可能な橋梁については計画的に小断面のボックスカルバートへの更新を行い、維持管理費の縮減を図っていきます。

5. 橋梁長寿命化修繕計画による効果（試算）

令和2,3年度の橋梁定期点検(二巡目)結果に基づく試算によれば、今後50年間に於いて、対象橋梁21橋を全て「事後保全型」で管理した場合と、修繕計画での「事後保全型」と「予防保全型」を合わせて管理した場合による修繕事業費用を比較した結果、約14億円のコスト縮減効果が見込まれます。

また、老朽化に伴う劣化や中性化による損傷に起因する交通制限等が減少し、道路ネットワークの利便性・安全性が確保されます。

表5-1 今後50年間の事業費縮減効果



6. 新技術の活用

6.1 橋梁定期点検

橋の構造形式や路下条件等に制約がある橋梁については、ドローンや画像解析技術などの新技術による点検も効果的と思われるため、安全かつ有効的な新技術の活用を検討します。

新技術の活用にあたっては、従来の点検方法との比較検討を行い、費用の縮減や効率化等の効果が見込まれる新技術は積極的に活用を検討します。

6.2 橋梁補修

補修工法については、さまざまな新技術・新工法が開発されていることから、調査設計段階からNETIS（新技術情報提供システム）等に掲載されている新技術・新工法について、従来工法との比較検討を行い、コスト縮減が図れる有効的な工法を選定し採用していきます。

【様式1－2】

対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替時期

凡例： ←→ 対策を実施すべき時期を示す

橋梁名	道路 種別	路線名	橋長 (m)	架設 年度	供用 年数	最新 点検 年次	対策の内容・時期													
							R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14				
馬場目川大橋	1級	湖東線	106.6	1980	43	R3			←	舗装：打換	主部材：塗り替え塗装	→							点検	
ふれあいロード橋	その他	八郎潟駅東西線	78.1	1991	32	R2	←	主部材： 塗装塗り替え	→		点検							点検		
鳥屋崎2号橋	その他	鳥屋崎団地4号線	2.2	1982	41	R3						点検							点検	
鳥屋崎1号橋	その他	鳥屋崎団地2号線	2.2	1982	41	R3						点検							点検	
瀬沢1号橋	その他	松ノ木瀬沢線	5.8	1989	34	R3						点検							点検	
梨ノ木橋	1級	石川線	4.7	1984	39	R3		↔	舗装：打換			点検							点検	
中羽立橋	その他	羽立線	3	1975	48	R3						点検							点検	
梨ノ木2号橋	1級	蝦夷湊谷地線	9.4	1996	27	R3						点検	↔	伸縮装置：取替					点検	
上沖谷地橋	その他	上沖谷地下屋寝線	5.4	1975	48	R3						点検							点検	
川口北橋	2級	嶋ノ内州先線	6.4	1983	40	R3		↔	舗装：打換			点検							点検	
谷地橋	その他	谷地1号線	4.6	1990	33	R3						点検							点検	
川口橋	その他	中久保川口線	6	1983	40	R3						点検							点検	
梨ノ木3号橋	1級	天道田梨ノ木線	4.8	1982	41	R3						点検	↔	舗装：打換					点検	
岡本下台橋	2級	小池岡本下台線	2.3	1979	44	R3		↔	舗装：打換			点検							点検	
昼根下4号橋	1級	駅東大通線	2.5	1990	33	R3						点検							点検	
家ノ後1号橋	その他	上昼根団地1号線	14.6	2001	22	R3						点検						↔	舗装：打換	点検
家ノ後2号橋	その他	家ノ後団地1号線	15.3	2001	22	R3						点検						↔	舗装：打換	点検
川崎橋	1級	旧秋田八郎潟線	2.7	1990	33	R3						点検							点検	
上昼根橋	1級	中央線	2.4	1996	27	R3				↔	舗装：打換	点検							点検	
昼寝橋	その他	谷地昼寝線	2.2	1990	33	R3						点検							点検	
上沖谷地2号橋	その他	上沖谷地1号線	5.5	1983	40	R3						点検							点検	
合 計 (千円)							69,245	2,463	17,520	25,712	29,325					4,500	11,656			

損 傷 度 評 価 一 覧 表

整理 番号	橋梁名	形 式	点検 年度	損 傷 度 評 価												備 考	
				橋梁毎 の評価	主桁		横桁		床版		下部構造		支承部		その他		
					判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分		変状の種類
1	馬場目川大橋	鋼溶接・アーチ橋	H28	Ⅱ	Ⅱ	腐食	Ⅱ	腐食	Ⅱ	床版ひびわれ	Ⅱ	土砂詰り	Ⅱ	腐食	Ⅱ	腐食	
			R3	Ⅱ	Ⅱ	腐食	Ⅱ	腐食	Ⅱ	漏水・遊離石灰	Ⅱ	土砂詰り	Ⅱ	腐食	Ⅱ	路面の凹凸	
2	ふれあいロード橋	鋼溶接・H形鋼合成	H27	Ⅲ	Ⅲ	腐食	Ⅱ	腐食	Ⅱ	漏水・遊離石灰	Ⅱ	ひびわれ	Ⅱ	腐食	Ⅱ	腐食、欠損	
			R2	Ⅲ	Ⅲ	腐食	Ⅱ	腐食	Ⅱ	漏水・遊離石灰	Ⅱ	漏水・遊離石灰	Ⅱ	腐食	Ⅱ	腐食	
3	鳥屋崎2号橋	RC・RC床版橋(その他)	H28	Ⅱ	－	－	－	－	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	舗装の異常	
			R3	Ⅱ	－	－	－	－	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	路面の凹凸	
4	鳥屋崎1号橋	RC・RC床版橋(その他)	H28	Ⅱ	－	－	－	－	Ⅱ	漏水・滞水	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	路面の凹凸	
			R3	Ⅱ	－	－	－	－	Ⅱ	漏水・滞水	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	路面の凹凸	
5	瀬沢1号橋	RC・RC桁橋(その他)	H28	Ⅱ	Ⅱ	漏水・滞水	－	－	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	漏水・滞水	Ⅰ	変形・欠損	Ⅱ	舗装の異常	
			R3	Ⅱ	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	－	－	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	漏水・滞水	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	舗装の異常	
6	梨ノ木橋	RC・RC桁橋(その他)	H28	Ⅱ	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	－	－	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	漏水・滞水	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	舗装の異常	
			R3	Ⅱ	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	－	－	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	漏水・滞水	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	舗装の異常	
7	中羽立橋	RC・RC桁橋(その他)	H28	Ⅱ	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	－	－	Ⅱ	漏水・滞水	Ⅰ	土砂詰り	Ⅱ	土砂詰り	Ⅱ	舗装の異常	
			R3	Ⅱ	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	－	－	Ⅱ	漏水・滞水	Ⅰ	土砂詰り	Ⅱ	土砂詰り	Ⅱ	舗装の異常	
8	梨ノ木2号橋	PC・プレテン中空床版	H28	Ⅱ	Ⅰ	変状無し	－	－	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	ひびわれ	Ⅰ	変状無し	Ⅰ	土砂詰り	
			R3	Ⅱ	Ⅰ	変状無し	－	－	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	ひびわれ	Ⅰ	変状無し	Ⅰ	変状無し	
9	上沖谷地橋	PC・プレテン床版	H28	Ⅱ	Ⅰ	変状無し	－	－	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	沈下・移動・傾斜	Ⅱ	土砂詰り	Ⅱ	土砂詰り	
			R3	Ⅱ	Ⅰ	変状無し	－	－	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	洗掘	Ⅱ	土砂詰り	Ⅱ	路面の凹凸	
10	川口北橋	PC・プレテン床版	H28	Ⅱ	Ⅰ	変状無し	－	－	Ⅱ	漏水・遊離石灰	Ⅱ	洗掘	Ⅱ	土砂詰り	Ⅱ	変形・欠損	
			R3	Ⅱ	Ⅰ	変状無し	－	－	Ⅱ	漏水・遊離石灰	Ⅱ	洗掘	Ⅱ	土砂詰り	Ⅱ	路面の凹凸	
11	谷地橋	RC・RC桁橋(その他)	H28	Ⅱ	Ⅱ	漏水・滞水	－	－	Ⅱ	移動	Ⅱ	漏水・遊離石灰	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	抜け落ち	
			R3	Ⅱ	Ⅱ	漏水・滞水	－	－	Ⅱ	沈下・移動・傾斜	Ⅱ	うき	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	変形・欠損	
12	川口橋	RC・RC桁橋(その他)	H28	Ⅱ	Ⅰ	変状無し	－	－	Ⅱ	移動	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	Ⅱ	土砂詰り	Ⅱ	抜け落ち	
			R3	Ⅱ	Ⅰ	変状無し	－	－	Ⅱ	変形・欠損	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	Ⅱ	土砂詰り	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	
13	梨ノ木3号橋	RC・RC溝橋(BOXカルバート)	H28	Ⅱ	－	－	－	－	Ⅱ	漏水・滞水	Ⅱ	漏水・滞水	－	－	Ⅱ	変形・欠損	
			R3	Ⅱ	－	－	－	－	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	－	－	Ⅱ	変形・欠損	

損 傷 度 評 価 一 覧 表

整理 番号	橋梁名	形 式	点検 年度	損 傷 度 評 価												備 考	
				橋梁毎 の評価	主桁		横桁		床版		下部構造		支 承 部		その他		
					判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分	変状の種類	判定 区分		変状の種類
14	岡本下台橋	PC・PC溝橋 (BOXカルバート)	H28	Ⅱ	—	—	—	—	Ⅱ	床版ひびわれ	Ⅱ	ひびわれ	—	—	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	
			R3	Ⅱ	—	—	—	—	Ⅱ	床版ひびわれ	Ⅱ	ひびわれ	—	—	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	
15	昼根下4号橋	RC・RC溝橋 (BOXカルバート)	H28	Ⅱ	—	—	—	—	Ⅱ	変形・欠損	Ⅰ	変状無し	—	—	Ⅱ	舗装の異常	
			R3	Ⅱ	—	—	—	—	Ⅱ	変形・欠損	Ⅰ	変状無し	—	—	Ⅱ	舗装の異常	
16	家ノ後1号橋	RC・RC溝橋 (BOXカルバート)	H28	Ⅱ	—	—	—	—	Ⅱ	床版ひびわれ	Ⅱ	漏水・遊離石灰	—	—	Ⅱ	舗装の異常	
			R3	Ⅱ	—	—	—	—	Ⅱ	床版ひびわれ	Ⅱ	ひびわれ	—	—	Ⅱ	路面の凹凸	
17	家ノ後2号橋	RC・RC溝橋 (BOXカルバート)	H28	Ⅲ	—	—	—	—	Ⅱ	床版ひびわれ	Ⅲ	漏水・遊離石灰	—	—	Ⅱ	舗装の異常	
			R3	Ⅱ	—	—	—	—	Ⅱ	床版ひびわれ	Ⅱ	ひびわれ	—	—	Ⅱ	舗装の異常	H31下部構造補修済み
18	川崎橋	RC・RC溝橋 (BOXカルバート)	H28	Ⅱ	—	—	—	—	Ⅱ	沈下・移動・傾斜	Ⅱ	沈下・移動・傾斜	—	—	Ⅱ	舗装の異常	
			R3	Ⅱ	—	—	—	—	Ⅱ	沈下・移動・傾斜	Ⅱ	沈下・移動・傾斜	—	—	Ⅱ	舗装の異常	
19	上昼根橋	PC・PC溝橋 (BOXカルバート)	H28	Ⅱ	—	—	—	—	Ⅱ	漏水・滞水	Ⅱ	変形・欠損	—	—	Ⅰ	変状無し	
			R3	Ⅱ	—	—	—	—	Ⅱ	漏水・遊離石灰	Ⅱ	変形・欠損	—	—	Ⅰ	変状無し	
20	昼寝橋	RC・RC溝橋 (BOXカルバート)	H28	Ⅱ	—	—	—	—	Ⅱ	変形・欠損	Ⅱ	変形・欠損	—	—	Ⅱ	舗装の異常	
			R3	Ⅱ	—	—	—	—	Ⅱ	変形・欠損	Ⅱ	変形・欠損	—	—	Ⅱ	舗装の異常	
21	上沖谷地2号橋	RC・RC桁橋 (その他)															
			R3	Ⅱ	Ⅰ	変状無し	—	—	Ⅱ	漏水・滞水	Ⅱ	洗掘	Ⅰ	変状無し	Ⅱ	路面の凹凸	